

会 議 録

1 会議名

令和6年度 第4回和田区地域協議会

2 議題（公開・非公開の別）

自主的な審議（公開）

（1）和田区の地域課題や地域活性化に向けたアイデアについて

3 開催日時

令和6年9月18日（水） 午後6時30分から午後7時29分まで

4 開催場所

ラーバンセンター 第4研修室

5 傍聴人の数

2人

6 非公開の理由

—

7 出席した者（傍聴人を除く）氏名（敬称略）

・委 員：秋山三枝子（会長）、横田朋巳（副会長）

阿部和子、泉 幸雄、近藤 浩、近藤美絵子、角谷紀栄子、高橋武弘、

西片正夫、西田良子、牧田 恵、山岸幸三、渡邊正昭

（欠席1人）

・事務局：南部まちづくりセンター 大島所長、小池副所長、石黒係長

8 発言の内容

【石黒係長】

・齊藤委員を除く13人の出席があり、上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第2項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、会議の成立を報告

・同条例第8条第1項の規定により、議長は会長が務めることを報告

【秋山会長】

・会議の開会を宣言

・会議録の確認：近藤美絵子委員に依頼

— 次第2 自主的な審議（1）和田区の地域課題や地域活性化に向けたアイデアについて —

【秋山会長】

次第2 自主的な審議（1）和田区の地域課題や地域活性化に向けたアイデアについてに入る。

今日の議題は一つだけである。前回お願いしたアイデアシートを本日提出していただき、今、黒板に書き出しているが、それについて皆さんとやりとりをして理解を深めたいと思っている。正副会長と事務局の事前協議において、たくさんのアイデアや課題をどのように進めるか話し合った中で、8月に受講したファシリテーションの研修を踏まえてグループに分かれて議論することも考えたが、とりあえず今回は、皆さんの意見を並べてブレインストーミングを行いたい。それを次回以降、また事務局や副会長と相談して方向付けていきたい。

この宿題を出されてからずっと考えていらっしゃった方も、今日、急いで考えた方もいらっしゃるかと思うが、それぞれが一生懸命和田区に思いを巡らせたかと思う。こんな思いで提案したいということをお話しいただきたい。

【西田委員】

釜蓋遺跡の案内看板の設置を提案させていただいた。市の大事な遺跡だが、なかなか場所がわからない。上越妙高駅から出てもよくわからないので、もっとはっきりと大きなものがあればいいかと思った次第である。

もう一つ、和田区では防災意識があまり高くはないと感じており、地域の防災意識、防災力の推進を提案する。実は、私は防災士であるが、先日の町内会の避難訓練でも何か少しピントがずれているようなところがあったことから、その必要を強く感じた。他の防災士の方と和田支部を設立することも検討している。昨年、春日区の地域協議会で春日支部を立ち上げたと聞き、何とか協議会から支援をいただきたいという思いである。

【秋山会長】

恐らく町内会の防災訓練は地震を想定した訓練だと思うが、和田区は矢代川が近いのでいつも水害のことが気になる。突発的に発生する地震と比べて水害はある程度の時間的な猶予があるといことで市の防災訓練はいつも地震を想定して行うのであろうが違和感がある。西田委員が考える防災意識、防災力とはどちらに向けたものか。

【西田委員】

全体である。この間の避難訓練も水害とは一つも書いてなかった。何年かに1度だったか避難訓練の指示があって実施しているようである。

【秋山会長】

では次、楽しく歩ける散策道の整備について。

【近藤美絵子委員】

ほかの町内のことはよく分からないが、自分の町内のことを考えてみた時に住宅しかないということで、人に来てもらうのにはどうしたらよいかを考えてみた。矢代川があり、団地側に舗装された道がある。いろいろな人がジョギングをしたり歩いたりしているほか、大和保育園の子どもたちも天気のよいときに散歩に来て石を拾って字を書いたりしている。そこで、ただ歩くだけの道ではなく、楽しく歩けるような工夫をしたらどうかと考えた。

例えば、歩いた距離がわかるように50メートルなり100メートルのメモリを入れたり、楽しくハミングしながら歩けるような物語のようなものや子どもにやった「けんけんぱ」のようなものをペンキで描いて、マスコミ等が紹介すれば人が集まってくるのではないかという発想である。

【秋山会長】

矢代川の土手は本当に多くの方が散歩に使っており、やはり距離がわからないというのは同感である。楽しい仕掛けはいいなと思う一方、管理はどこかするのも感じた。

【阿部委員】

今の時代、和田区に限らず高齢化が進んで平均年齢、健康寿命も延び、人生100年時代と言われている。そこで、子どもから高齢者まで安心して暮らせるよ

うに現在ある施設とその関連団体との連携によって、もっと充実した高齢者支援ができないかと考えた。

まず、現在あるものとして市の高齢者支援課が進めているすこやかサロンがある。すこやかサロン和田というものがあり、和田地区公民館やラーバンセンター、下箱井のふれあいセンターの3か所で開催されている。私も公民館とラーバンセンターはわかるが、下箱井にはまだ行ったことがない。すこやかサロンでどのようなことを行っているか調べたところ、事務局が和田地区公民館の中にあり、体操やゲームをしたり、おしゃべりしたり、お茶会や工作などを行っている。ラーバンセンターでは卓球を盛んに行っているようで、体を動かすのは健康維持にいいことからもう少し積極的に活動したい人に向けて、そのような設備や器具が充実するといい。卓球台の数は少なく、みんなで交代でやっているようで、そこに歩行マシンなども取り入れてもっと積極的に体力づくりに励むことができるとよい。お金を出せば幾らでも体力づくりができる所はあるが、気楽に立ち寄れる所があるといいということとで提案した。

【近藤浩委員】

このペースで説明していくと9時ぐらいまでかかってしまうので、1人当たりの発言時間を限った方がよいと思う。

【渡邊委員】

手短かに説明する。まずは、和田区の広域的なボランティアグループの設立について、登録制のようなものを作って小中学校で必要なときに活用できる組織があるといい。例えば、教員経験者や防災士、看護師など、地域住民で活動可能な人材を掘り起こしていくことを想定している。城西中学校には地域ボランティア制度があるようだが、とにかく今、小中学校で先生方がかなり大変な状況だという。地域の力を借りたいという声がとても大きいと聞いているので、可能かどうかはわからないがそういったことも考えたらどうかと思う。

次に、和田区の各町内からの駅への交通手段について、例えば、うちのほうを通っている島田線というバスの路線があるが、これは高田駅までは行くが上越妙高駅は行かない。せっかくできた新幹線駅を経由するバス路線を何とかできないものか。

あと、上越市全体の方を考えるとという提案は、例えば、学校や保育園の統廃合ということが問題になっている中、病院の統合も昨今非常に大きな問題になっていると思うので、地域医療の再編の問題は安心して暮らせる生活の基盤であるから、そういったことも話し合ったり、あるいは、情報収集することも地域として大事ではないかという思いから提案した。

最後に、この地域協議会の委員だけの考え、あるいは、情報収集だけでよいのかということで、協議会委員の手引きには、地域住民の声や地域の様々な団体などからの意見を募ると書いてある。そのような過程、例えば、住民へのアンケートや町内会やその役員方との意見交換の場を作るなど、そのようなことを行えばよいのではないかという提案である。

【牧田委員】

和田区で運動会を開催していると思うが、そこに参加するのが楽しくなるように出店を募ったり、各町内会で行うお祭りのように何か出し物を出したりとか、綱引き大会に出場している人がたくさんいらっしゃるの、その方々にパフォーマンスなどを披露してもらったり、参加して楽しめるようなお祭りの要素を含んだ運動会を目指したらどうかというのが一案である。

2点目の岡原の交差点については、国道18号から上越妙高駅のほうに入る際に目につくのは岡原の交差点だと思う。そこを鯨波の交差点のクジラのようにとは言わないが、地下道も子どもたちが歩くときにもっと楽しかったり、もっと綺麗にしたらいいと思う。車からもここを曲れば駅とわかるような綺麗な感じを目指したい気持ちである。

3点目の脇野田通りの市の復活について、脇野田通りというのは駅の中を通っている歩道であるが、駅が開業した当時、月1回だったか農産物の市などが盛んに行われていた。それがコロナの関係だったのか無くなってしまい、また復活できたらいい。

【近藤浩委員】

和田区には市が認定する地域の宝が確か七つあったかと思う。せっかく認定を受けた地域の宝なので、その普及を図り地元への誇りを育むことに活用するといいい。

まだまだ埋もれている文化財等もたくさんあると思う。大和3丁目では、地域の宝の認定を受けてから大和小学校の児童が課外授業に訪れるようになり、地域への理解を深める活動も見られるようになった。これを他の地域にも広げて、縦軸と横軸を一緒にして地域の誇りを育み、さらなる掘り起こしにつながるといい。

次に、祭りの継承・復活について、祭りやろうと簡単に言ってもやるのは大変だが、やはり人を集める、活性化させる、元気づけるには、祭りが一番ではないかと思っている。

3点目の町内をまたいでの交流推進について、一番危機感を持っているのが子ども会の問題で、絶滅寸前の子ども会があると聞く。地域の子ども会には入りたくないという家庭もあるそうで、さいの神の正月の飾り集めも子ども会で行うことは難しくなって町内会が主体となって行っているという。そうであれば、町内をまたいで子ども会のイベントを何かできないかという提案である。

【山岸委員】

移住を促進することによって、農業の後継者を探す取組をやってみたらどうかと提案した。二つ目の祭りの件は、近藤浩委員と同じような考えである。世代を超えた交流ができればいいかと思う。三つ目の高齢者と子どもの交流施設を作ることにについては、施設つくるとなると大変なことだとは思いますが、やはり遊び場、大人も入って遊べるような場所があるといいと思い提案した。

【横田副会長】

和田区に集まるための公共交通機関、例えばコミュニティバスだったら先ほどの話のように、とりあえずすべてが上越妙高駅に行くとか、高田・直江津駅には行かないが上越妙高駅には行けるような交通システムがあつたらいいと思う。

子どもたちに将来、和田に残ってもらうため、実際には難しいかもしれないが、小学校を連携した形で、先ほどの話のように退職された教員の方などから協力をいただいで放課後勉強室など何かできないか。そういうところで子どもたち同士が交流できればいいと思う。

農業でも何かと思い、ほ場整備で大きくなった田んぼで田んぼアートをやったらどうだろうと提案した。農家の方の大変さを一切考えず、岡原の田んぼを上から見

たら、全部田んぼアートになっていたとしたら面白いと考えた次第である。

空き家については、市や国、県の補助金を活用して空き家をリノベーションするための勉強会などの機会を設けられたらいい。地域協議会主催では無理だが、いろいろなところの事例を和田区にも落とし込めるかと思ったものである。

【泉委員】

自分の町内のことがわからない、知らないという方が多数いるようである。実感としてはやはり、和田区は矢代川を挟んで東西に分かれていることから、どうしたら一体感が生まれるか、努力をしていくことが大切だと思う。そのために、先ほど近藤浩委員から話があったように自分の町内で自慢できるお宝、あるいは、伝統行事や遺跡等々を募集して、和田区全体で共有することによって他の町内のお宝も知ることによって一体感が生まれるのではないのかと考えている。

【角谷委員】

まだアイデアシートを提出していないが、資料を一つ持ってきた。9月1日の上越タイムスの記事で島田下新田の古民家で、8月30日に小さな子どもと親を対象にした無料開放イベントが行われたと書いてある。こういうことを行う人がいてとてもよかったと思うと同時に大変驚き、何か参考になると思った次第である。

二つ目、新津に住んでいたとき、遊歩道が整備されていて大勢の人が歩いていた。健康づくりにもいい。和田に戻ってきて稲荷の方を巡ったり、自分なりのウォーキングのルートを開発しようとしたが残念ながら歩きにくかった。新津ではどのように整備されているかという、まず東屋がありトイレがある。ただ、トイレは冬期間は使用できなかつたり、東屋も若干古くなっていて、誰が管理するのかといえば、市であろうか。そうするとやはり町内では難しいのかもしれない。しかし、花の名前の看板や木に看板をつけたり、所々に何か遊びの要素、例えばうんていのようなものや「ここで何かの動作を〇回やりましょう」と描いたり、駅の中も入っていいなら入りたい。駅の通路は子どもたちの通学路であるから大丈夫だろう。人生100年時代ではないが、楽しく健康づくりができるといい。

【高橋委員】

私も今回提出していなくて申し訳ない。今、皆さんが提案されたことの繰り返し

になってしまうが、楽しく歩ける散策道の整備について自分なりに少し話したいことがある。岡原から上越妙高駅前に通じる通路、この歩道は整備されているが、ポプラの根が歩道に張り出しており、すごくひび割れている。ひどいものは歩道を越えて田んぼの畔のほうまで枝が伸びて芽が出ているという状態である。また、ポプラの並木の幹が太くなって交差点の見通しがきかないので、全部伐採しろとは言わないが一本おきに間引きするとか、そのようにしていただかないと交差点で危険な思いする。また、根が張っているところは、自転車が走れないような状態であるので、できるだけ何とかしていただきたい。

それともう一つ、空き家について私も空き家を抱えている一人である。場所は妙高市だが、妙高市の場合、空き家バンクというものを市が運営しておりホームページで紹介している。そのような手段を考えるのも方法かと思っている。

【西片委員】

私も今回の宿題については、なかなか思いつかなかったが、皆さんの意見を聞いてこういうことがあったなと気付いたことがあった。渡邊委員の話しにあった地域協議会の委員だけの考えや情報収集で十分かということについては、他の団体と協力して問題の解決に向かっていけば、市へのアピールも強くなるかと感じた。

また、牧田委員が体協の運動会の活性化についてお話しされたが、体協運動会に参加しない集落が幾つかあるのが実態である。運動会だけでなくいろいろなイベントを兼ねて実施すれば、また盛り上がってくるのではないかと考えた。

岡原交差点周辺についていろいろなアイデアがあったが、岡原交差点の東側の大きくなったほ場が私たちの担当しているほ場で、道路沿いの草刈りも行っている。市は草刈りをしてくれないことから隣接の耕作者が行っているのだが、そこにスーパーの袋に入ったゴミが定期的に投棄されており、そのようなものやペットボトルなどを片付けてから草刈りを行うのが現状である。そういった所も看板等、あるいは、監視カメラを設置すれば効果があると思う。たまにゴミが散乱している状況もあり私も片付けたことがあるが、そのような状況も含めた岡原交差点周辺の清掃ということも考えていただければいいと思う。

【秋山会長】

実は私も提出していない。ずっと考えているが意外と難しいと感じていた。地域協議会メンバーで考えるものと地域全体で考えることに分けていろいろ思いを巡らせて、地域協議会メンバーでこうしたらいいということはいろいろあるのだが、和田区全体の課題としたらまとめきれなかったのが正直なところである。

一番は、和田地区と大和地区が先ほど矢代川で東西に分かれているという意見があったが、各町内会の世帯数や住んでいる方々の帰属意識などに随分差があるので和田区全体でという将来像はとても描きにくいと感じた。交通インフラは、上越市内でこの地区が一番恵まれているのではないかと感じている。まだ何にも生かされていないが、新幹線の駅がありトキ鉄もあり国道18号の大通り、山ろく線、高速道路のインターにも近い。妙高市と隣接していて、ここを起点に上越市全体に広がっていくので、交通インフラがとてもよい。また、広大な農地が広がっているので将来的なポテンシャルがすごく高いと感じた辺りでメモが終わってしまい、とても提出できなかった。

他に意見がなければここで一区切りさせていただき、今日提出されたものを少し整理してまとめたものをなるべく事前に渡したいと思っている。そのように作業を進めさせていただきたい。

【近藤浩委員】

防災意識・防災力の推進というところで、この9月が確か大和町内の3年に1回の合同避難訓練、合同防災訓練の年だったかと思うが、皆さんそれぞれ大和小学校に集まって、当日は雨により外でのイベントが中止となったが、AEDや消火器を使ってみたりした。大和3丁目では、その後町内会館に集まって市からいただいた防災食の試食会を行った。炊き出し係が味や作り方を説明しながら試食を行ったところ、非常に好評で防災食への関心が高まったと思っている。皆さんが家に帰って、また家庭の話題になればそれが一つの前進になるのではないかと思い、参考までに紹介する。

【秋山会長】

今のように自分の町内ではこんなことやっているという紹介でも構わないがいかがか。

【阿部委員】

先ほど、ポプラ並木についてお話があったが、あそこは確かに駅から国道18号へ出る途中の大事な道路である。あそこにポプラ並木があるのはとてもいいと思っていたのだが、あれはどのような経緯で植えられたのか。

【泉委員】

あの県道を拡幅したときに、町内の要請で市が植えたものであり、市が管理しているはずである。評判はいいことはいい。水彩画教室で水彩画を書いたこともあるが、歩道の根の隆起が問題になっており切っ払ってほしいという要望も地元からたくさん出ている。

【高橋委員】

ポプラ並木に関心持っている人間の1人だが、全部切っ払って欲しいというわけではない。幹が太くなってきて、隙間がなくなっていることから、交差点に入ろうとするときに、もう少し間隔を空けていただきたいというのが一つ。先ほども話したように、歩道の隆起した根についても以前根元を全部掘り起こして、根が伸びないように擁壁を確か作ったはずであるが、それでもなお伸びているという状況である。恐らく並大抵のことでは手に負えないだろう。枝も伸びるのが早く近くを通っている電線に引っかかってしまい、昨年1回火災が起きている。そのような状況もあって、岡原や中箱井にとっては逆に邪魔だという声が多くなっている。

また、せっかくポプラ並木という形で始めたのであれば、本当なら駅前まで通すべきだと思う。それが途中で途切れているのは、何か理由があつてのことだろうか。

【泉委員】

矢代川から東側だけの県道の拡幅だったので駅側までは植栽を要望しなかった。

【高橋委員】

自分としては、残すのは残しても構わないが、もう少し見通しを良くして欲しいと言うのが本音である。

【秋山会長】

上越妙高駅から東に向かってまっすぐ伸びている交通量の多い目立つ通りのため皆さんの関心も高い。いろいろ工夫はされているであろうが、街路樹の種類を決め

ることはすごく大変なことだと改めて感じた。

【山岸委員】

遊歩道を楽しく歩けるようにという発言があったが、私の自宅の前の塀にもイラストが描いてある。知らない人が多いようで、案外見ないのではないか。道路の真下には描けないので、高さ1メートルの塀に幅10メートルくらいの大きさに描いてある。楽しく歩くと言ってもなかなか見ている人は少ないように思う。

【近藤美絵子委員】

私が想定した道路とは、車が通れない人しか歩かない自転車がたまに通るだけの道である。

【山岸委員】

うちの所も歩道が広いのだが。それこそ散歩とかいろいろな人がいっぱい通っている。

【近藤美絵子委員】

そこに何か描いてあれば、ただ歩くだけじゃなくて下を見たり、考えたり、歌を歌ったりしながら、楽しく歩いてもらえればいいなという提案である。

【秋山会長】

山岸さんの所は、描いてあってもあまり人目に触れていないようである。

【山岸委員】

早く言えば、そう思う人は何人かいて、思わない人がたくさんいるということであらう。

【秋山会長】

何でも導入当初は皆さん関心も熱意もあってするのだが、少し時間が経ってしまうと何か関心が薄れてしまうようなことであらうか。

【山岸委員】

イルミネーションを飾ったときだけは皆さん褒めてくれる。しかし、イラストはあまり見ていないようである。

【秋山会長】

様々なご意見をいただいた。アイデアシートについての意見交換はここまでとさ

せていただく。

以上で、次第2 自主的な審議(1)和田区の地域課題や地域活性化に向けたアイデアについてを終了する。

— 次第3 事務連絡 —

【秋山会長】

次第3 事務連絡 に入る。

事務局より説明を求める。

【小池副所長】

- ・今後の地域協議会の日程連絡

令和6年度 第5回地域協議会：10月16日(水) 18:30から

第6回地域協議会：11月20日(水) 18:30から

会場：ラーバンセンター第4研修室

【秋山会長】

会議の日程についてはよろしいか。

先月1日に正副会長を対象としたファシリテーション研修が開催され、横田副会長と一緒に出席した。ファシリテーション研修は、地域協議会のような話し合いの場を効果的にスムーズに進行させる方法を学ぶもので、当日は午後1時から6時までみっちり研修を受けた。ここで一言ずつ感想を報告する。

【横田副会長】

研修の中身は、どのように会議を進行するか、皆さんにいかに意見を出していただくかというもので、普段から秋山会長がやられていることの延長かと思う。何より他の区の地域協議会委員と交流できたことが正直一番よかった。他の協議会の会長、副会長の話を聞きながら、そのまま和田区に生かせるかどうかは別として、こういうやり方もある、こういう問題もあると、いろいろな観点から話を聞いたことが一番参考になったかと思う。

【秋山会長】

初めてこのような研修会に参加した。当初1時から6時まで5時間も勉強するのは嫌だなと思っていたが、東京から来た講師の方の進行が上手く、1時間程度講義をされた後、グループに分かれて進行役などの役をそれぞれ割り振られて演習を行い、休憩を挟んでまた1時間のグループワークという形で進められた。28の自治区があるので1グループあたり概ね三つの地域協議会のメンバー5、6人で構成し、全部で9グループあったうち私たちのグループは谷浜・桑取区地域協議会の方と頸城区の方と一緒に、いろいろな実情をグループ討議で聞くことができたことがとても印象に残っている。研修の翌週、谷浜・桑取区地域協議会にも傍聴に伺い、自分たちのところと違うやり方を垣間見させていただいてとても有意義であった。

- ・ただ今の説明について質問を求めるがなし
- ・全体を通して質問を求めるがなし
- ・会議の閉会を宣言

9 問合せ先

総合政策部 地域政策課 南部まちづくりセンター

TEL : 025-522-8831 (直通)

E-mail : nanbu-machi@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料もあわせて御覧ください。